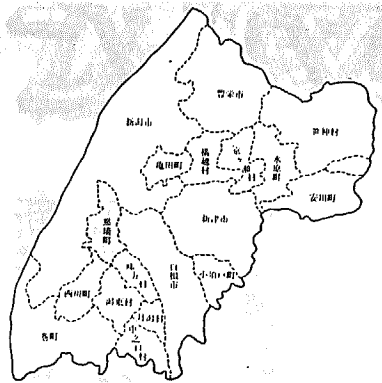


げない。いろいろ取りくんでいる
ようなので、立派に推進を。

浅妻 流通業務団地の形成、平成
三年度にオープン予定の県の観光
物産センターがあるので、温泉を
開発したいという考えを持ってい
る。五十九度のお湯が出るものが
試験的データでわかっている。た
くさんの効きめがある。多くの観
光客や流通業務団地へのお客に、
まず温泉に入ってもらいたい。一
日の疲れをとっていただきたい。そ
れと関連して、枝豆を初めいろん
な農産物があるので、特産品をど
んと生産し、農業の活性化を図
り、昔からの都市と農村の共存で
きるまちづくりを実現したい。

新潟市に期待することは、国際
交流の一層の推進とコンベンショ
ン施設の設置、また大規模スポー
ツ施設、鳥屋野潟開発を早くやっ
ていただき、利用できるようにし
ていただけるとありがたい。



*新潟地域広域市町村圏

新潟地域広域市町村圏は、昭和47年に
新潟地域広域市町村圏協議会として設立
された。上図の4市(新潟市、新津市、白
根市、豊栄市)7町(安田町、水原町、小
須戸町、亀田町、巻町、西川町、黒埼町)
7村(京ヶ瀬村、笹神村、横越村、味方
村、湯東村、月潟村、中之口村)からなる。
昭和60年の国勢調査では、人口約80
万人。面積約890平方キロ。

*新潟百万都市経済圏構想

下越商工会議所会頭会議が昭和63年に
提唱した、新潟市を中心に人口百万人
以上の都市を形成しようという構想。

この構想を受け、経済関係者からなる
新潟百万都市経済圏構想検討小委員会
は、今年9月25日に新潟商工会議所会頭
に答申を行った。その内容は、新潟市は
今後十年後をめどに新潟地域広域市町村
圏に含まれる市町村と北蒲聖籠町の合併
を前提に人口百万人規模の政令指定都
市をめざすべきだ、としている。

*一部事務組合

二つ以上の市町村などの地方公共団体
が、その事務の一部を処理するため設
けるもの。

*コンベンション・シティ

コンベンションとは会議のこと。大規
模な国際的会議などを開催できるよう
施設(会議場、ホテルなど)の整った
都市。

*インテリジェント・シティ

情報通信設備を完備したビル群からなる
未来型の情報都市。

れる両津港を最大の物流基地とし
たい。観光施設の整備では、大半
が国定公園・自然公園で開発しづ
らいが、やりようによっては、ユ
ニークな施設が可能。整備した
い。ソフト面では、まちづくりは
人づくりといわれるが、一億円の
ふるさと創生事業で人づくりをや
りたい。また、特産品の開発など。
新潟市にやってもいいこと
は、教育・文化の面で個性的なイ
ンテリジェント・シティをめざし
てほしい。コンベンション・シテ
ィの推進、ソフトウエア・情報産
業の集積も期待したい。

若杉 新潟市だけの事業として、
市政百周年事業の新水族館建設。
来年七月にできる予定。また、市
民ホール、文化センターを作ろう
と基金づくりを計画。これらは市
独自の事業だが、広域的にも通用
するだろう。鳥屋野潟南部はいく
つかのゾーンを決め整備。新潟
港、橋、空港についても努力して

原 はもとも人間の多いところに立
地することになる。これからは安
定した発展のためには百万人が必
要といわれている。
佐藤 白根は新潟市と関係が深
い。しっかりと都市計画をし、
農工商のバランスとれたまちづく
り。
栗原 すでに商売・流通の方では
広域化している。豊栄は日本一住
みやすいところというのが以前新
聞に出た。しかし、それだけでい
いのか。広域の中での機能分担と
して何をすべきか考えなくては。
栗原 新潟には明るい見通しもある。
工場団地造成や、東北横断道

の新鮮インター付近に運輸省が流
通センターを作るので、それを中
心に開発が行われるとか。さら
に、東北横断道の盛り土が秋葉山
からとられ、その跡が平地になる
ので運動公園にしたいという話
も。商工会議所の方で百万都市構
想が出されている。経済界に市町
村の境界はいらぬ、実際にな
い。われわれが中心になって活
化しようじゃないかということ
でやっている。市町村にお願いし
ながら協力していく。新潟も政令指
定都市の話があり、市町村合併の
話もあるが、役割分担していこう
という考えはある。

新潟市と周辺の一体化はますます進む

温泉・特産開発で都市と農村の共存を

ふるさと創生一億円で人づくりしたい

経済界に市町村の境界は不必要である

原

浅妻

伊藤

栗原

黒埼町の 今昔

大野小唄の今昔(二)

昭和二十八年、戦後の新しい風潮 に合わせ、新「大野小唄」を作る。

昭和二十八年の春、大野町
の料理屋組合で組織した観光
協会が中心となって、「大野
桜」の復活を宣伝して客を呼
び込もうと、キャラバン隊の
結成が計画された。その時、
宣伝歌の「大野小唄」の歌詞
の一部が問題となった。

「花の大野町電車走りゃ」
と歌詞の作られた当時は珍し
かった電車も今は古ぼけて新
鮮味を欠き、「中ノ口川千船
の港、朝の出船に小唄を乗せ
て、秋の川面にモーターは響
く」「展びる大野は水の町」
もまた、水上輸送の時代から
陸上の自動車輸送の時代へと
大きく変わって、いささ
か時代にそぐわなくなってい
た。

昭和二十八年という、ど
この町や村も、戦後の復興め
ざましく、一般の生活程度も
向上して、すべてが新しいも
のへ、との風潮があったから、
ことさら強く感じられたのか
もしれない。

しかし、組合の中でもしい
て反対する人もなく、旧「大

野小唄」のままキャラバン隊
を出そうという状況だった。

そんな中、新しいイメージ
で「観光大野」を売り出すキ
ャラバン隊の唄に、もう珍し
くもなんともない電車や川船
の唄では時代に合わないとい
対したのが、当時料理屋組合
の副会長であった好春のおか
み高橋ハルノさんだった。

組合は応じてくれなかった。
男気で、観光事業に人一倍力
を入れていたハルノさんは独
力でも新しい歌を作ろうとい
に決めた。

「新大野小唄」
作詞 梅中軒鶯堂
作曲 古関 裕而
振付 市山七世
ハアー
一越後大野で濡らした袖を
しのお笑顔に春の風
アアー
花の里
ヨイヤヨイ<花の里
ハアー
一逢うて別れた信濃の流れ
逢えば浮名の中ノ口
アアー
星の夜
ヨイヤヨイ<星の夜
ハアー
一三社諏訪様玉橋渡りゃ
実り豊かな唄の中
アアー
ヨイヤヨイ<月が今宵
の縁結び
ヨイヤヨイ<縁結び
ハアー
一今朝の吹雪で弥彦が見えぬ
つもる情を玉の肌
アアー
ヨイヤヨイ<越後大野
は夢の街
ヨイヤヨイ<夢の街



昭和59年8月の第一土曜日、「第10回新潟県農協芸能祭」で「新大野小唄」を踊る金巻婦人会の皆さん。BSNテレビで放映された。

次に掲げる「新大野小唄」の
歌詞を完成させた。これが今
日、一般に歌われている「大
野小唄」である。

がら、有名な作曲家古関裕而
氏に「新大野小唄」の作曲を
頼んでくれたが、その費用は
まったく取らなかったという
しほらしくして、古関さんか
ら「新大野小唄」の楽譜が送
られてきた。さっそく、その
楽譜で三味線をひこうとした
が、ピアノで作曲したものを
三味線でやろうとしてもな
かなか容易なことではなかつた。
そこで大野小学校の音楽担
当の田中先生に頼んで、芸妓
の中でも芸達者な五、六人が
練習したが、かろうじてあ
せられたのが、きた八ねえさ
ん一人だった。しかし、それ
も鶯堂師の満足するものでは
なかつた。

さらに、鶯堂師は昭和四十
年代に入って『流れ雲』と題
した本を出版した。筆者はそ
の本を見ていないが、鶯堂師
が興行して歩いた町や村の人
の暮らし、巡業先での珍しい
できごとなどを書いたものと
いう。それが当時、人気を呼
んで、NHKテレビでドラマ
化された。当時の大盛館も紹
介され、大盛館の娘役に三条
市出身の女優水野久美が扮し
大阪からわざわざ大野の大盛
館までロケ隊が来たというこ
とである。執筆・宮田栄門
取材協力・高橋ハルノ